

全員の勝利で喜びを分かち合う年に

福島県社民フォーラム代表 紺野 長人

新しい年が幕を開けましたが、コロナや物価高による苦しく不安な日々はまだまだ続きそうです。

岸田政権は、そうした現状には目もくれず、中国や北朝鮮の脅威を人々に植え付け、防衛予算倍増のための新たな負担を国民に押し付けようとしています。国民に負担を押し付ける前に、どのような「間違った外交」が日本の軍事的脅威を高めるのか…を追求するのが本来の政治ではないでしょうか。

こうした、国民の暮らしに寄り添おうともしない政治を地方から変えるためにも、今年の統一自治体選は極めて重要な戦いです。あわせて、私たちが「組織と運動の拡がり」を目ざして社民フォーラムを立ち上げ、そこに結集したことの正しさを確認しあうためには全員の勝利を何が何でも勝ちとらなければなりません。

そうした中、私の後を継いで、県職連合副委員長の「半沢ゆうすけ」君（37歳）が県議選への挑戦を決意しました。社民フォーラムの県議一議席を若い世代に引き継ぎ守り抜くことは、「組織と運動の拡がり」を展望するために負けられない戦いです。

今年の統一自治体選の総仕上げとして、総力を結集いただきますようお願いいたします。終わりに、自治体選のすべてに勝利し、喜びを全員で分かち合える一年となることを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

今年も力を合わせて頑張ります。



代表 紺野 長人

会計監査

後藤 晋一（安達）
松崎 新（議員団）
渡部 訓正（南会津）
高畑孝一（喜多方耶麻）
栗城 善和（会津若松）
近藤 国俊（白河）
吉田 彰（須賀川）

幹事

石塚 忠数（郡山）

事務局長

渡辺 敏雄（会津若松）

次長

八巻 利行（福島）

副代表

八重樫小代子（郡山）

代表

紺野 長人（福島）

憲法をいかに福島県民の会第19回総会

＝2月11日(土)13:30 県青少年会館＝

第19回憲法をいかに福島県民の会総会が開催されます。

第49回衆議院選挙と第26回参議院選挙で「改憲勢力」は、3分の2以上を超える議席を獲得しました。

衆議院解散がなければ、3年間はこの状態が続きます。岸田首相は、この状態の内に国民投票を行う考えています。

そのために、憲法審査会を頻繁に開催し(予算委員会中も開催)し、多数決によって採択しようとしています。

採択後は、国会発議(自民党案)をし、60日から180日以内に国民投票が行われる。

自民党の憲法改正素案は、①自衛隊の明記と国防軍②緊急事態条項③参議院選挙の合区④教育の無償化などがありますが、前文・9条の改正、共生から自己責任など国の在り方を変えるものであります。「緊急事態」「合区」「教育の無償化」などは、法律改正でいくらでも出来るものであります。

今年の活動は、国会発議や国民投票が出来ないように「憲法改悪・9条改悪反対」の人を結集させることや国民の多くを「憲法改正反対」世論づくりをする重要な年であります。

今年の新聞意見広告は8月15日「氏名」を掲載することになります。

個人の尊厳を守る!!



原発のない福島を！県民大集会

＝3月19日(日)12:00 パルセいいざか＝

2023 原発のない福島を！県民大集会が、3月19日(日)パルセいいざかにて開催される。

2011年3月11日に発生した東日本大震災・東京電力福島第一原発事故から12年目を迎えますが、未だに収束の目途が立っていません。

それよりも岸田政権は、原発事故の反省もなく、原発の再稼働・原発期限延長や新增設を発表しています。更に夏には「トリチウム汚染水」を海洋放出しようとしています。全く許されるものではありません。

このような状況の中で、「県民大集会」が、コロナ禍ではありますが1,000人(県内600、県外400)規模で開催されます。

内容は、①連帯挨拶(さよなら原発1000万人アクション)②福島からの発信(漁業関連業者など)③集会アピールなどになります。

財政については、賛同金(500万円)で賄います。

- 1、各地区参加要請
福島(15)安達(2)郡山(10)須賀川(4)白河(4)会津若松(10)喜多方耶麻(4)南会津(3)計52
- 2、個人賛同金は全会員1口以上(1,000円)
- 3、団体賛同金：5000円
- 4、呼びかけチラシ
チラシ：500枚ポスター50枚

